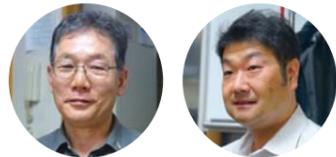


上川西さくらロードの会

地域から愛される桜並木の保護を目的に住民有志が集まって活動する、「上川西桜ロードの会」。2018年春に渡場町と藤沢町の間にある桜並木が伐採されるという知らせを受け、憩いの場として近隣住民に利用されてきた桜並木を保護していくため同会を設立しました。地域全体に活動の輪を広げたいという思いから、周辺11町内会の総称である「上川西」を冠し、保護活動の取組みを実施しています。「桜並木を残したい」という漠然とした思いを具体的なアクションに結び付けられた背景には3つのポイントがありました。



代表 飯澤幸一さん
事務局長 下田将太郎さん

ソトの視点を取り入れる

当会では、数年前に上川西地区にUターンした事務局長の下田さんが、同世代のつながりを活かして、地域活動の勉強会に参加したり、パパ友仲間を活動メンバーに呼び込んだりと、「よそ者」として新たな視点の取入れ、新たな層への共感の拡大に一役買いました。また、協働センターのほか有識者など上川西地区を客観視できる第三者に客観的なアドバイスを求めたことも、プロジェクトの共感を集めるのに奏功しました。



プロジェクトを地域の課題に

比較的新しい住宅街である上川西地区は、地区全体が一体となる催しが少ないこともあり、町内会の枠を超えて住民同士が関わる機会の少なさが課題でした。11町内会をまとめる「上川西連合会」会長や、地区の市議会議員など「いつか上川西地区でも地区住民が交流する盛大なイベントを催したい」という願いを抱いている方々に桜並木の地域価値や将来像を伝え、その思いを紡ぐ第一歩として当活動に取り組みたいという趣旨を理解頂きました。そのようにして賛同を得たことが、地域全体のプロジェクトとして推進していく機運づくりに役立ちました。



みんなの自分ゴトに

活動の輪を広げるため、地域住民との関係性を育む課外活動の場としてプロジェクトに協力してもらえないか近隣の小中学校、大学に提案を持ちかけました。保護活動への参加を一方的にお願いするのではなく、桜並木の保護が地域全体の利益につながることを意識してお願いしています。そうすることで、各関係者が「手伝われる」のではなく、自分ゴトとして活動に参加してくれるようになりました。



らこま

Racotte
vol.70

発行 ● ながおか市民協働センター

2018
10
FREE

地域活動で新たな暮らしの
楽しみを知った移住ママ

片桐直子さん

インタビュー

interview



成松直樹さん

地域も仕事も
豊かにする営業マン!



we can do it!

私たちは〇〇ができます!

長岡には様々なノウハウやスキルをもつ市民団体がたくさん!
困りごと、協力してほしいことはありませんか?
私たちが力になりますよ!

団体①

「シェア飯長岡」は、 面白い人を紹介できます!

私たちは、毎月13日に一人一品持ち寄りの交流会を開催しています。毎回数十人の方が参加し、その中には市内外で多方面に活躍する“面白い”人も。「こんな人を紹介してほしい」とご相談頂ければ、力になれるかもしれません!

詳細はこちら



団体②

「与板町歴史ボランティアガイド会」は、 与板地域のガイドができます!

私たちは、歴史、文化、町なみを中心に与板地域をPRしています。年間を通して四季折々の与板の魅力を巡るガイドや町歩き企画、「よいた検定」を実施できます。検定は小学生、高校生、一般の3つの難易度があります。

詳細はこちら



information

センターからのお知らせ

無料で活動紹介・作品展示 などに使えます!

協働センターのロビーには無料で利用できる非営利団体の活動発表用の展示スペースがあります。使い方はいろいろ! 展示用備品のレンタルもできます。サークルの作品展示や、活動紹介などにいかがですか?



【展示期間】
2週間以内(個人の展示はできません)

【利用申込】
協働センター窓口または
電話でお申込みください
(展示予定日の6カ月前より予約受付)

展示 スペース

【正面壁】幅5m80cm×高さ1m70cm
【協働ルーム脇壁】幅6m50cm×高さ2m50cm
【BCホール脇壁】幅6m×高さ1m75cm
【第3協働ルームガラス面】

コライト、見ないと!

コライト 検索

ながおか市民協働センターは、地域をより良くする市民の活動が集まる拠点です。協働センターのwebサイト「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。らこまのバックナンバーも閲覧できます。ぜひご覧ください。

らこま 2018.10.1 FREE 【発行】ながおか市民協働センター
(vol.70)

〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10 シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 Mail.kyodo-c@ao-re.jp http://nkyod.org

配布場所 長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。

●活動PickUp!

- ・寺子屋キッズ
- ・学生消防隊
- ・特定非営利活動法人くらしサポート越後川口×地域おこし協力隊
- ・CASUAL DINING EU Café

●市民活動・虎の巻

- ・プロジェクトの輪の広げ方『上川西さくらロードの会』
- 私たちは〇〇ができます!
・シェア飯長岡
- ・与板町歴史ボランティアガイド会



毎週月曜日17時頃から放送中!

つながるラジオ

FMながおか
80.7MHz

ながおかの市民活動紹介番組

放送時間 10分程度
第5日曜日を除く

地域をよくするウワサのあの人にインタビュー!

活動に込める気持ち、これまでのいきさつ、組織での役割……。根拠裏掘りお聞きしました。



片桐直子さん (43歳/会社員) みしマルシェ実行委員、親子サークル「いちごクラブ」代表、三島地域母子保健推進員、三島地域食生活改善推進委員、三島地域委員

キャリアウーマンから地域活動へ
引っ越しを機に知った新たな楽しさ

三島地域でたくさん地域活動に取り組む片桐直子さんが、地域活動への一歩を踏み出した理由は、自分の三島暮らしを居心地良くしたかったから。

地元松山市を離れ東京で働いていたときに、同じ職場だった夫と結婚。結婚当初から、いつかは地元に戻ることが夫の希望だったため、お子さんの小学校入学を控えた2011年、三島地域に転居。「どこでも」住めば都と思っていたが、東京との違いに驚きました。東京では公園に行けばママ友に会える環境でしたが、三島では公園に人すらなくて、友達もなかなかできませんでした。そんな時、子育て支援センターで声をかけられ、親子サークル「いちごクラブ」に加入。これを機に知り合いも増え、地域と関わる場が広がりました。

何事も声を掛けられると二つ返事で引き受

ける片桐さんですが、誰かのためにやっているという感覚はあまりないそう。「どんな頼まれごとも自分が楽しいからやっているというのがスタンズ。自分でできないことは他の人にも頼るし、無理はしません」。2015年に参加した三島に住む人の手作り作品を販売する「手仕事市」への出店も、もともとミシンで洋服を作ったりするのが好きで楽しそうだったから。その後立ち上がった、手作りの販売を通じて、三島の人たちのつながり作りと三島の魅力発信を目指す「みしマルシェ実行委員会」では、出店者と来場者に楽しさを提供する運営側の楽しさも知り、自分の楽しみの幅も広がっています。「東京に住み続けていたら、小さなコミュニティから出ることなく、今のような地域活動の楽しさも知らなかったと思います。仕事も地域活動も楽しいので、これからも家庭と並行しながらできる限り続けていきたいです」。



●上: 手作り小物や食べ物が並ぶ「みしマルシェ」。主に会計とSNSを担当し、出店者とのやり取りなどもママにこなしています。●左下: 現在、代表を務める「いちごクラブ」は、ゆるく月1回活動中。いろんな価値観を認め合える場づくりを心掛けています。●右下: 片桐さんの応援団で大切な家族。「今の自分があるのは家族が理解し、応援してくれるおかげです」。

profile

- 1975年 愛媛県松山市に生まれる。
- 1997年 大学卒業後、プログラミング会社に就職し、松山市で働く。翌年、東京へ転勤。
- 2011年 三島町(現長岡市)に転居。この年に立ち上がった親子サークル「いちごクラブ」に参加するようになる。
- 2015年 「手仕事市」に出店者として参加。これを機に「みしマルシェ実行委員会」に参画。

活動の根っこ

何ごとも
自分が楽しむ
片桐直子



成松直樹さん (51歳/会社役員) とちラボ、トチオアカリ実行委員会、長岡市ふるさと創生基金事業委員、コミセンまちづくり部会

まちの元気が地域も仕事も豊かにする!
「縁の下の力持ち」で継続的な地域づくりを目指して

保険業を営む傍ら、栃尾地域で活動する地域づくり団体「とちラボ」に立ち上げから関わる成松直樹さん。30~50代のメンバーと共に、イベントや空き家を活用した交流スペースの運営、地域情報の発信などに取り組んでいます。

20年前に東京から栃尾地域に引っ越して来た際、地域のことがわからず苦労した成松さん。「わからないことは人に聞く。周囲に頼ることを学びました」と積極的に周りの人との関わりを持ってきました。

地域活動のスタートは、「長岡の中心市街地で面白いことを何でもやってみよう!」という仲間、流しソーメンなどの企画を実施したこと。メンバーと共にまちなかに楽しみを生み出したことに手ごたえを感じると同時に、自分が暮らす栃尾を盛り上げたいという想いも大きくなり、こ

れをきっかけに、栃尾での地域活動に参加しています。そんな成松さんの根底にあるのは、「三方よし」という言葉。いい仕事をしていくには、地域に元気があってこそ。地域経済も良くしていきたいという気持ちから地域活動にも取り組んでいる成松さんです。

そして現在、とちラボのメンバーの中で年長者組のひとりである成松さんは、にこやかな笑顔で多様性を抱擁する、団体になくてはならないムードメーカー。先頭に立って舵を取るのではなく、若手メンバーのやりたいことを支える縁の下の力持ち的な役割を果たしています。「若い人に実践の場をつくってあげたいですね。それは地域も会社も同じだと思っています」。この思いが積み重なって地域のチカラになっていくのかもしれない。



●上: 栃尾の夜を灯で彩る「トチオアカリ」は、とちラボイベントを支えている。昼夜問わず作業では、メンバーと冗談や時には弱音もはきながら汗を流す。●左下: 「なんでもCafé」という団体を立ち上げ、アオーレ長岡で流しソーメンを実施。この時に竹を提供してくれたのが現在のとちラボメンバーのひとり。●右下: 三人姉妹のお父さんでもある成松さん。栃尾地域への転入は子育て環境を求めて。「幼少期の上杉謙信が見ていたかもしれない」そんなロマンを感じる。城山と街、守門岳の景色が気に入る。毎年春に上っている場所。

profile

- 1966年 宮崎県で生まれる。
- 1986年 夢を抱いて上京。奥さんと出会い結婚。
- 1998年 長女が5歳になり今後の子育て環境を考えた結果、奥さんの実家である栃尾地域へ引っ越す。
- 2014年 市民活動団体なんでもCaféを立ち上げ、中心市街地で活動。その後「とちお地域づくり楽習会」に参加し、多彩なメンバーの一員としてとちラボ立ち上げ。

活動の根っこ

三方よし
成松直樹

活動PickUp!

「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します

生の声は「ラジオ」「コライト」で!

寺子屋キッズ

学び合える新たな子どもの居場所



小学生を対象に、学校でもない塾でもない、新しい仲間たちと一緒に子どもたちが様々な体験を通じて自分でやってみたい事を見つけたり、プログラムを通じて「できた!」という達成感を持ち帰ったりしてもらいたいと、平成29年6月から活動をスタート。今年からは畑体験ができる「どんぐりクラス」と、親子のコミュニケーションをはぐくむ「さくらんぼクラス」を追加し、とことん体験!とことんチャレンジ!で子どもたちの力が開花できるように活動しています。

学生消防隊

地域の若手防災リーダー

平成29年6月に発足した学生消防隊は、大学生などの若者が消防団活動を通じて、消防や地域防災に関心を持つことにより、地域防災の担い手となり、さらには消防団員の確保につなげることを目的とした団体です。主に普通救命講習会での指導や火災予防広報活動、大災害が発生したときの避難所の設置や運営補助ができるよう訓練しています。消防団活動の経験を生かして、若手防災リーダーとして地域に貢献できるよう取り組んでいます。



特定非営利活動法人くらしサポート越後川口×地域おこし協力隊

相乗効果で地域を元気に



コミュニティバスの運営や川口JRプラザ等の施設管理など、地域住民が必要としているサービスを展開するくらしサポート越後川口は、平成28年より地域おこし協力隊2名を受け入れ、合宿誘致や減災支援、婚活事業などを新たに行っています。外からの視点が入ることで、地元民では気づかない新たな発見があり、相乗効果が生まれています。また、2人とも地域の人から愛称で呼ばれ、地域を元気にする貴重な存在となっています。

CASUAL DINING EU Café

コックさんの子ども食堂

ひとりご飯を食べる子どもを減らし、心が喜ぶ食卓を増やしたいと全国的に展開されている「コックさんの子ども食堂」を平成30年4月8日からスタートしました。この子ども食堂では、飲食のプロが本格的なメニューを提供。子どもたちから外食に行くワクワク感を味わってほしいと、営業中のお店を貸し切りしています。開催は不定期ですが、今後も沢山の家族と一緒に「いただきます」が言える特別な空間を作っていきます。



みんなの声
投稿 随時募集中
「これも協働!」暮らしの中で感じた人とのつながり

投稿者 ロミーさん
地域でマッサージを施術しています。普段は商売でしている私ですが、中越地震のときは避難している人に施術したり、大雪のときには雪かきで疲れた人に施術してあげたりしていました。もちろんお金儲けにはなりません、これまでのどの施術よりもやりがいがあったと思います。顔と名前を覚えてくれて後々お店に来てくれた方もいました。

投稿者 ルビーさん
この間、息子と一緒に「協働」の話をしました。「〇〇はどんな協働してる?」と聞くと「僕はベルと協働してる!」と即答。ベルというのは我が家のわんちゃん。朝、ふたりに(正確には一人と一匹で)新聞を運んでくれるので確かに協働してくれています。けど、いたずらも協働されるので困ります(笑)

投稿方法
投稿フォームを使う
協働センター窓口で投稿する
QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。
協働センター窓口には「みんなの声」コーナーから投稿できます。

